

## 6-6 ウエペケレ「ケトウペ カムイ イレス」解説

語り手：貝澤とうるしの  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：これは **ketupekamuy i=resu** [ハリガネムシの女神が私を育てる] という題だな？

貝澤：うん、そうだ。

萱野：私は一人の少年でありました。

貝澤：**kamuykatkemat i=parosuke** [神の淑女が養ってくれた]

萱野：ものごごろついた時には、**yaci** [湿った泥] の中、**yaci** っちゅうのはドロドロになったのアイヌ語で **yaci** というんだけど、その **yaci** の中で育てられており、そして夜眠ると綺麗な女の人がおいしいものを作って持ってきて、私に食べさせてくれると。

そうするとまたそれによってお腹がいっぱいになるという生活を続けておった。陸（おか）へ上がると体も全然汚れずに、誰かが……、汚れずに毎日を過ごしておった。

ある日のこと、**rik kus cip... cip** というふうだな？

貝澤：うん、うん。

萱野：何かその、こうずっと今でいう……

貝澤：**rik peka cip owse hopuni wa ek** [高いところを舟がまっすぐ飛んできた]

萱野：空を飛ぶ舟が飛んできて、私の住んでいるすぐ上へ降りて、降りてってすっかり降りずにそこから **itoat** [ロープ] というふうな表現で出ておりますが、糸が降りてきてその連なりに男の人が一人降りて言うことには「これこれ、お前は私の息子なんだよ」と。「私は **oripak kamuy** と言って病

気の神様だけれども、お前を自分の息子として生まれてからそういう悪い、悪いというか、神の仲間に入って育てること出来ないので、**ketupekamuy** というのはハリガネムシの女神にあなたを預けて、もう今ではこのぐらいに成長したのだから、あなたの叔父さんや叔母さんがこの向こうに見える地根を超えた向こう側へ行くと、そこで生活をしているから、そこへ歩いて行って、そこで **yay'opeope** 自分で自分のこういうふうな生い立ちできたんですよという事を言いなさい。そうすると人間としてあなたは成長することが出来るから」と、言われたので私は次の日に、まあ、そのあいだ細かく表現出てるんですけども、父である神の後を追おうとしたんだけど、もう今ではその、お前と一緒に行くことが出来ないからと、私を叱りつけるようにしておいて、次の日は早くその地根を超えて向こう側へ行き、そして叔父や叔母に育てられて、私は成長したと、そういうふうなこれは **uepeker** [散文説話] の中でも非常にその珍しく……

貝澤：ほんと。

萱野：きちっと整え……